

優秀賞

一般建築物の部

～イチョウと園児の活動をつなぐおおらかな遊戯室～

やきりっこホール

建築主：学校法人藤樫学園
設計：松本巨志建築設計事務所
合同会社円酒構造設計
株式会社設備計画
施工：日南鉄構株式会社
所在地：松戸市下矢切140



遊戯室

幼稚園の園庭に遊戯室を増築する計画である。敷地は前面道路から1.6m、背後の隣地から3m程度低く、建替等を経てきた既存園舎のレベル設定も特殊であった。その特異な「地形」との丁寧な対話が建築のかたちに結実している。レベル差の調停や遊戯室の面積確保等のいわゆる制約や条件がポジティブに計画に反映されたことを感じさせる素直な佇まいだ。さらにイチョウの根と土壌への配慮という生態学的感性、土圧壁と一体化した基礎で錨の役割を担保する土木的感性、園児の安全や活動の豊かさへの配慮の身体的感性がフラットに現れている点が巧みである。

一階のピロティは天高約2mとやや低いが、イチョウの枝下高さで調和し、園児たちにとっては秘密基地のようなスケール感である。遊戯室の内装は木調としつつ、今後壁面に増える貼り紙や制作物となじみやすいよう配慮されており、人間活動に付随するモノと景観の問題も考えられている。

錨の役目を担うための厚さ450のマッドスラブや柱状改良が、この建物規模としては過剰に見えるのは当然として、建物の窓が南北方向に全く無い方向性の強さは少々気になった。倉庫や遊戯室からスロープの上や下に抜けるささやかな視線が、園児の小さな活動を目撃し、場の使い方の幅が広がるかもしれない。

また地域活動への遊戯室の貸出しも運用面で特筆すべき点だ。安全面等の幼稚園の特性上、今後どのくらい開かれていくだろうか。遊戯室の単なる貸出しにおさまらない活動が生まれるなど、より一層の地域との活発なつながりを期待したくなる建築である。（海法 圭）



外観

(撮影:井上登写真事務所)



園庭と遊戯室をつなぐスロープ

(撮影:井上登写真事務所)